



Title	次世代OPACの現況と展開への期待
Author(s)	久保山, 健
Citation	
Version Type	AM
URL	https://hdl.handle.net/11094/14109
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

次世代OPACの現況と展開への期待

久保山 健 (KUBOYAMA Takeshi)
大阪大学 情報推進部 情報基盤課 (図書館システム担当)

<August 22, 2009>

大図研第40回全国大会(in 前橋), 研究発表

会場: 前橋テルサ

本日の骨子

1. 自己紹介
2. 関心を持ったきっかけ
3. 次世代OPACって?
4. 海外事例
5. 国内事例、検討状況
6. 次世代OPAC情報交換用マーリングリスト
7. 今後期待すること、したいこと

1. 自己紹介

- ◆ 久保山 健 (くぼやま たけし)
- ◆ 大阪府 寝屋川市 在住
- ◆ 現在の所属: 大阪大学 情報推進部
情報基盤課 図書館システム担当 (4年+)
- ◆ 経歴: 図書受入、雑誌全般、図書の契約、和漢書の目録
- ◆ 大阪大学附属図書館が使用している図書館システム: NEC LICSU-Web
(*) 契約期間: 2007.3. ~ 2012.3.

2. 関心を持ったきっかけ (1)

◆ピッツバーグ大学図書館への出張

○期間: 2007.12月上旬～2008.3月上旬

○Pittでは、”たまたま”OPACの改良について検討中

○担当者へのインタビュー／複数の商用ソフトのデモを聴講

○米加の3大学図書館に調査出張

2. 関心を持ったきっかけ (2)

◆次世代OPACに対する最初の印象

- ・個人的には従来型に慣れていた

↓

「違和感」

「どういうロジックで、この検索結果が返ってくるの???」

「なんか使いにくいなあ」

2. 関心を持ったきっかけ (3)

◆ 次世代OPACに対する最初の印象

そして……

「最近の学生は”検索”自体に慣れているだろう」

「検索スキルを利用者に求めるより、逆に初めてでも、概ね
使えるような仕組みやインターフェースも必要」

「自分もGoogleを使う時、上の方に表示されているものを選
んで満足しているでしょ！」

「よく見ると、使いやすそうやん」

「せめて!? 一般のWebサイト並みにしたい」など

<<こう考えることで、”垣根”は越えました。>>

※使うための一定のスキルは必要

※適切な結果が表示されているか、たどり着けたかの検証も必要

※ユーザの意見も聞いてみたい

3. 次世代OPACって? (1)

◆以下のが代表例

- (1) シンプルな検索ボックス
- (2) 絞り込み機能
- (3) 関連語の表示

他のサイトへのリンク

- (4) 適合度によるソート
- (5) コメント、レビュー機能(利用者参加型機能)
- (6) リコメンド機能

※但し、特定の機能などを指すものではない

基本的には、Web環境での技術向上の文脈かと思われる

3. 次世代OPACって? (2)

◆宇陀論文から

○それらの機能は、

「ウェブ環境においてはごく普通」

○所蔵資料のオンライン目録という定義の
逸脱(変容)

「もしかしたらこの逸脱しているという点が
「次世代」なのかもしれない」

出典：宇陀則彦. 利用者中心の設計 一次世代 OPAC の
登場一. 図書館雑誌, 2009, Vol.103, No.6

4. 海外事例 (1)

◆AquaBrowser

- ・商用ソフト
- ・University of Chicago
- ・Queens Library, Jamaica, NY など

4. 海外事例 (2)

◆ VuFind

- ・オープンソース
- ・National Library of Australia など

4. 海外事例 (3)

◆eXtensible Catalog

- ・オープンソース
- ・オーチェスター大学(USA)が中心に

5. 国内事例、検討状況 (1)

◆日本事務器(株)の "NeoCILIUS" (レビュ機能等)

- ・パッケージシステム

- ・東京経済大学図書館 など

- 検索ボックスはほぼ全ての画面にあり

- 絞り込み：ソート順の選択機能

- 関連語、関連サイト

- 外部DB連携 (NC, Amazon, Bookwebへ)

- コメント、レビュー

- (*)先駆的に機能の改善を図られている。今後にも期待

5. 国内事例、検討状況 (2)

◆ NEC (CMS) E-Cats, ver. 4

- ・大手前大学・大手前短期大学 図書館
- ・立教大学図書館 <http://opac.rikkyo.ac.jp/opac/>
- ・青山学院大学 図書館 <http://www.agulin.aoyama.ac.jp/>

○クラスタリング 資料種別で (only?)

○デザインの個別対応

○他のサイトへのリンク

Amazonの書影表示とリンクあり。図書・雑誌別で変えられる

○Refworksへのエクスポート。EndNoteも?

○雑誌の所在ごと詳細表示

・未製本と製本を一括表示 ・「詳細を表示/非表示」

○ノーヒットの場合、他のサイトへのリンクボタンを表示させる。

○電子ブックの書誌も登録できる(CAT-P, MARC21に対応)

5. 国内事例、検討状況 (3)

◆ 富士通 iLiswave-J

・東京電機大学 総合メディアセンター

<http://lib.mrci.dendai.ac.jp/webopac/>

○絞り込み:「キーワード検索」には、ソート順の選択あり
結果一覧からも選択できる

○関連語、関連サイト

バーチャル本棚(書誌検索結果一覧画面から「本棚」をクリックする)

→Amazonの書影表示とリンクあり (アフィリエイト付き)
あらすじと目次あり

5. 国内事例、検討状況 (4)

◆ NTT Data, NALIS

・鹿児島大学 図書館

<http://kusv2.lib.kagoshima-u.ac.jp/opc/>

○絞り込み： クラスタリング(?)は資料種別で
クリック&選択で、並び替えもできる

○関連語、関連サイト

外部DB連携 (NC, Bookweb等へのリンクあり)

書影有り(Amazon) アフィリエイトなし

○コメント、レビュー： レビュー機能がある様子

5. 国内事例、検討状況 (5)

◆ その他のベンダー

いろいろ動きはある模様(直接はお聞きしていません)

◆ 参考

次世代OPAC 事例集(国内) たたき台版

http://blog.goo.ne.jp/kuboyan_at_pitt/e/334a401af64e603c59e3318c965a90f9

5. 国内事例、検討状況 (5)

◆大学図書館

- ・一部で、情報交換や、気運を盛り上げる動き
(2008年度前半)
- ・個別の学習会で取り上げられつつある様子
その他、TRCライブラリー・アカデミー
(2008年度後半)
- ・一部で具体的検討、学習会等、検討の進行
(2009年度前半)

<<情報交換、情報共有の必要性>>

知見、製品、アイデア、事例、ノウハウ…

6. 次世代OPAC情報交換用マーリングリスト(1)

◆現況(2009.8.10.現在)

○110のアドレス(グループアドレスを含む)

*)2月16日では62

- ベンダー/代理店関係者=15(8?社)

- 大学図書館/国会図書館=84

- 公共図書館=2

- 学術情報流通関係者=1

- 不明=11

6. 次世代OPAC情報交換用メーリングリスト(2)

◆現況(2009.8.4.現在)

○ メールの数量 : 155

○ 主な内容 :

セミナーや製品情報、意見交換へ

○ ご紹介のサイト

http://dwsrv.library.osaka-u.ac.jp/pitt_report/nxopac.html

6. 次世代OPAC情報交換用メーリングリスト(3)

◆悩み

- 具体的な議論や方向性に発展しにくい(けど、兆しも?)
- ベンダー/代理店は発言しにくい(とお聞きしました)
- メーリングリスト自体は目的ではないが、メーリングリストから何が生まれるのかという不安(期待)
- 内容が蓄積しにくい。ブログ併用??

7. 今後期待すること、したいこと(1)

◆ ブログか何かで事例集

○ 関係者の参考情報、国内状況の概観のため

○ 複数で維持管理したい

○ 次世代OPAC事例集(国内) たたき台版

http://blog.goo.ne.jp/kuboyan_at_pitt/e/334a401af64e603c59e3318c965a90f9

7. 今後期待すること、したいこと(2)

- ◆ 知見やアイデアの共用から機能向上へ
- ◆ 「利用者中心」の機能デザインをどう進め
るか

○利用者分析の必要性

個別事例でも(一部ではされているみたいですが...)

*) 展開までの時間と作業コスト...

#機関リポジトリ分野などでは、グッズやインタビュー
や、いわゆるマーケティングも流行っていますが。

7. 今後期待すること、したいこと (3)

◆今後への期待

○情報交換・情報共有の枠組み自体は継続する
価値がある(と思う)

○具体的な議論、事例報告

○リアルなセミナーでの議論

複数のベンダーが混じると面白そう

あるいは、具体的なテーマで議論

(例：書影表示やアフィリエイト)

7. 今後期待すること、したいこと(4)

◆書影やアフィリエイトをどうすべきか

○そもそもの目的

- (1)書影そのもの
- (2)豊富な情報利用
- (3)アフィリエイト(による収入)

○Amazonでのパターン分け

- (1)書影のみ表示 #ダメ
- (2)リンク (アフィリエイトあり／なし)

○”利益誘導”とならないために

- ・複数書店にリンク!?
- ・アフィリエイトの比率を入れ。どのように?

7. 今後期待すること、したいこと (5)

◆“利用者中心”へ

OPACは、

- カード目録や目録規則、入力規則の延長にあるのではない
- 使ってもらうための情報だということを再認識したい

7. 今後期待すること、したいこと(6)

◆導入パターン

- ・パッケージのみ
- ・パッケージ+海外商用製品
- ・パッケージ+海外OSS

(参考：某大学図書館検討資料)

7. 今後期待すること、したいこと(7)

◆期待する大学図書館

(おまけ：宣伝)

ロビーにて好評発売中 売り切れごめん

久保山健

「ピツツバーグ大学図書館における約3ヶ月
の滞在型研修」

8.1 次世代OPAC

非常にいいタイミングだった。...滞在中にベンダーのデモも4回程
あり、その内2回に参加することができた...

(大学図書館問題研究会 研究会誌. 32号,
2009.8)

ご静聴ありがとうございました。

続きはディスカッションで

